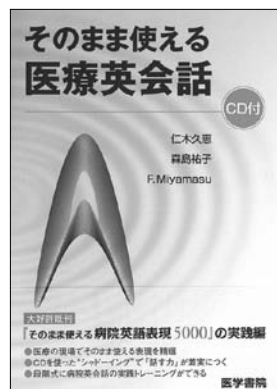


『そのまま使える医療英会話 [CD 付]』 医療現場に必要な 英語情報と実践のギャップ を埋める一冊

著：仁木久恵／森島祐子／Flaminia Miyamasu
定価：3,675 円（本体 3,500 円＋税 5%）
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



「日本の常識は世界の非常識」とも言われるように、日本で当たり前と考えられている流儀が海外で通用しないことは決して少なくない。特に対人コミュニケーションでは、これがトラブルの原因となる可能性もある。ところが日本の医療現場における外国人患者への対応はこれまで、医療従事者の個人的な経験則に委ねられがちだった。

本書ではそれを「外国人患者との効果的なコミュニケーション 10 か条」として明快にまとめている。「平易な英語で話し、専門用語はなるべく使わない」「患者の母語が英語であるとはかぎらない」「自分が話した内容を患者に繰り返し言ってもらい、情報が正確に伝わったかを確認する」など、具体的な方法論はどれも分かりやすく実際のだ。本書の全編を通じて、これに共通する姿勢が根底に感じられる。相手に対する効果的なコミュニケーションとは、医療従事者と外国人患者の間の問題であるだけでなく、著者と読者(学習者)との間に横たわる課題でもある。本書の著者は、数多くの医療英語表現のエッセンスをいかに効果的に学習者に伝え、身につけてもらうかという点に、特に心を砕いている。ひとことで言えば、大変ユーザー・フレンドリーな本だ。

例えば、対話文では医療者側のセリフだけ色分けしてあるので、どこを意識して学べばいいかわかる。さらに重要な表現を Useful Expressions に

まとめてあるので、まずはその部分を覚えれば、医療場面でもかなりの意思疎通が可能になるだろう。

また、シャドウイング(CD の英語音声聞きながら後を追いかけて発音する)は、通訳養成講座ですでに定番として確立している効果的な訓練法だが、本書ではそれを積極的に医療英語に取り入れ、具体的なやり方の助言を添えている。

ほかにも、症状別の詳しい「用語ファイル」、同じ病気に対する医学専門用語と一般的な呼び名との比較表、実用的な「スピーキング攻略のヒント」など、学習者の目線に立った提案が多い。

実は、同じ著者の前作である『そのまま使える病院英語表現 5000』(医学書院、2006 年)をはじめて見たとき、同じ英語テキスト製作に携わる者の 1 人として、率直にこれはすごいと思った。これほど詳細に、あらゆる医療場面を英語で表現した緻密な本は、並の苦労では作れない。

しかし一方ではその情報量の多さゆえに、膨大な量の英文を前にどこから手をつければいいか、途方にくれる学習者もあったかもしれない。

だが、「情報」と「実践」の間の大きなギャップを埋める今回のテキストが出版された。この 2 冊がそろえば、リソースとしての医療英語表現の大型データバンクと、それを活用・実践するための親切な道案内のガイドブックとが両方手に入ることになる。画期的な新シリーズの登場と言えよう。